

かを知りたくて、古本屋を巡っていた学生時代に出会った二冊。現在は『限界芸術論』（ちくま学芸文庫、一九九九）にまとめて収録されている。大佛次郎が書いた『鞍馬天狗』、『赤穂浪士』、『由比正雪』などの時代小説に、昭和初期の日本に対する風刺と批判を読み取っていく鶴見の議論は、作家が小説に施した仕掛けを説明して良しとする閉じた文学研究とは異なり、文学と文学研究の社会的意義を浮き彫りにしており、私にとって研究の出発点となった。

② 『ブレイク——革命の時代の予言者』
J・プロノフスキー／高儀進訳（紀伊國屋書店、一九七六）

複雑怪奇なテクスト群を生み出してしまったために、狂気というレッテルを貼られることの多かったイギリス・ロマン派の詩人ウィリアム・ブレイクを、プロノフスキーは十八世紀英国社会という文脈の中で読み直し、ブレイクが検閲をかくぐるために輓晦に輓晦を重ねながら、時の権力を批判し、言論と思想の自由を訴えたことを明らかにした。ポーランド出身のプロノフス

キーが、第二次世界大戦中にブレイクを読み、ファシズムに対する解毒剤をブレイクに見出したという事実は、文学研究のあるべき姿の一つを示す。

③ 『分裂病と人類』中井久夫（一九八二）

二〇一三年に新版が出た。中井の著作は学問領域の壁を超えた全人的な考察を特徴としており、教えられることが多い。

④ 『柳宗悦とウィリアム・ブレイク——環流する「肯定の思想」』（東京大学出版会、二〇一五）

京大で桑原武夫、鶴見俊輔、多田道太郎の著作に親しみ、ロンドン大学で実証的な英文学研究の訓練を受け、東大駒場比較文学比較文化研究室で比較芸術に開眼して、このような本が生まれました。序章だけでも読んでみて下さい。

たちかわゆうじ
立川裕二（理学系研究科・理学
部准教授／物理学）

① 『中世の秋（上・下）』J・ホイジンガ著
／堀越孝一訳（中公文庫、一九七六）

高校のときになぜこの本を手についたのか覚えていませんが、それ以来の愛読書で

す。穏やかな言葉でヨーロッパ中世の文化が語られます。日本で育てば、信長、秀吉、家康についての逸話は誰でもいくつかわ知っているでしょうが、フランドルで育てば、同様に歴代ブルゴーニュ公の逸話を知っているのだろう、等、そういう違いにも僕に気づかせてくれました。これは二〇〇一年に中公クラシックスとしても出版されていますが、装丁は断然中公文庫版が良いので、手に入るならそちらをお勧めします。

② 『一般相対性理論』P・A・M・ディラック著／江沢洋訳（ちくま学芸文庫、二〇〇五）

大学初年度で物理を学ぶ際には、歴史的発展に沿って学ぶか、現行の理解に基づいて天下りの学ぶか、大きく二通りに分かれませんが、これは後者の代表例でしょう。非常に簡潔に薄く、最低限必要なことを過不足なくまとめていて、教科書のあり方の一つの極致です。

③ 『甲骨文字字釋綜覧』松丸道雄・高嶋謙一編（一九九五）

これは漢字の最も古い形である甲骨文字

藤原書店

ヨーロッパは中世に 誕生したのか？

J・ル＝ゴフ 中世史の最高権威が
ダイナミックに描くヨーロッパ成
立史の決定版。英仏独西伊5ヶ国
共同出版。 菅沼潤訳 4800円

対欧米外交の追憶

1962-1997 ④⑤

有馬龍夫 日本の主要な外交現場に
携わった、知性派外交官のオールラ
ストリー。 竹中治堅編 各4200円

見えないものを見る力

「潜在自然植生」の思想と実践

宮脇昭 “いのちの森づくり”に生涯
を賭ける、植物生態学者。 2600円
人類最後の日 少年少女へ。 2200円

「古代学」とは何か

展望と課題

上田正昭 文字史料を批判的にも
考察しつつ、遺跡や遺物、神話や民間
伝承なども総合的に考察。 3300円

詩 魂

高 銀・石牟礼道子 韓国と日本を
代表する知の両巨人が、文学、人間、そ
して人類最後の聖地・海をめぐって、
魂を交感させ語り尽くす。 1600円

◎明治初年を問い直し、土台から日本を造り直す！

学芸総合誌
季刊

歴史
環境
文明

vol. 60 2015年冬号

〈特集〉「明治」を問い直す

芳賀徹＋片山杜秀＋新保祐司／平川祐
弘／小倉紀蔵／杉原志啓／阪本是丸ほか

〈特集〉アベノミクスのゆくえ／原田泰／榎原英資

〈特集〉沖縄はどうなるか／海勢須豊／川瀬言一ほか

〈トーク〉竹内敏樹さんが問い続けたこと／鷲田清一十三

砂らちる〈書物の時空〉上田正昭ほか、〈連載〉川勝

平太＋宮脇昭／金子兜太ほか 3600円

月刊
機

B6変32頁 2月号 No.275
加藤晴久／宮脇昭／
竹中治堅／有馬龍夫
／南明日香／江種満
子／岡田英弘／宮脇淳子／尾形明
子／山崎陽子／大沢文夫ほか

年間購読料2000円（送料込）◎見本
誌・ブックガイド呈 ＊表示価格税別

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

4 『 $\mathcal{N}=2$ supersymmetric dynamics for pe-
destrians』

これはいろいろな大学での集中講義の講
義録をまとめたもので、はじめ <http://arxiv.org/abs/1312.2684> で無料で公開し
ていたのですが、二社が出版したいとい
うので、Hindustan Book Agency から Texts

月脚達彦

（総合文化研究科・教養
学部教授／朝鮮近代史）

and Readings in Physical Sciences の第一
六巻として、Springer から Lecture Notes
in Physics の第八九〇巻として出版されま
した。無料でネット上で公式に手に入るもの
を出版して出版社として売り上げが見込め
るものか、大いに謎です。

① 『客分と国民のあいだ——近代民衆の政
治意識』牧原憲夫（吉川弘文館、一九九八）
一八八〇年代前半の自由民権派の機関誌
には、日本が西洋人の属国になっても食っ
ていければよいという「民衆」の「客分意
識」を批判する記事がしばしば掲載され

② 『世界のなかの日清韓関係史——交隣と
属国、自主と独立』岡本隆司（講談社選書メ
チエ、二〇〇八）
日本と朝鮮は、「近代」という時代をか
なり異なる位置で迎えた。その位置の相違
として重要なのが、「中国」からの距離で

た。しかし、本書によれば、「民衆」には
「客分」なるがゆえの「政治意識」があり、
それをもとに近代国家に「異義申し立て」
をした。ところが、その「客分意識」は、
十年後の日清戦争の時期には「国家と憂楽
を共にする」「国民意識」へと変容する。
近代国民国家と「民衆」の格闘を描いた本
書は、近代朝鮮のナショナリズムを専門と
する筆者にとっても刺激的であった。